



学校だより

～立花小学校は令和5年3月に創立150周年を迎えました～

たちばな

2024年2月29日

尼崎市立立花小学校
校長 植木 加代子

弥生三月 一年の成長をふりかえって

春、弥生。早いもので、今年度最後の月となりました。保護者や地域の皆様には、年間通してご家庭や地域で見守り育んでいただきましたことに、心より感謝を申し上げます。おかげさまで子どもたちは、創立150周年記念事業を行う中で、いろいろなことを経験し、周囲の大人の愛を感じとりながらそれぞれのペースで成長してくれたと思います。PTAやコミュニティスクール等でお世話になった皆様も、本当にありがとうございました。11日にはボランティアさんへの感謝の会があります。ささやかでも精いっぱい感謝のきもちを、子どもたちが伝える行事です。よろしく願います。

「春は名のための風の寒さや」。暖冬の影響かどの花も開花や芽吹きが例年より早く驚きます。梅の花など、すでにたわわに咲いている木もあります。ジンチョウゲの良い香りは、うんと前からあたり一面にふくいくと広がっています。それでも春さながらの満開の花に、冷たい六甲おろしが容赦なく吹き付ける日もありました。早く咲いた花は寒風に揺さぶられながらも、必死に耐えていました。一方で、いまだ土の中にうずくまって頭を出さない球根もあります。お寝坊しているのかな、それとも、。

それらの様子に、子どもも一緒だなあと思わず姿を重ねてしまいます。環境に素早く反応して期待にこたえようとする子、のんびりマイペースの子、何かと試練に見舞われているけれど何とか乗り越えてたくましくなっている子、何もしていないようにみえても実は話を聞いていて力をつけている子、目立たなくてもコツコツと課題をこなしてきた子、どんなに手を尽くしてもなかなか大人の思う通りには行かない子など様々です。

でも、どの子にも素晴らしいのちの輝きがあります。一生のうちに、ここぞというときにはうんと力を出して芽を出し、花を咲かせ、結実させて幸せになると信じていますし、そうであってほしいとの大人の願いはいつでも同じでしょう。「見えぬものでも あるんだよ」金子みすずの詩の一節にもあるように、周囲より芽を出すのが遅い球根に例えられるような子どもは、がんばりが足りないのではなく、懸命に根をはろうとし、その子なりにがんばろうとしていることが「見える」心を大人はもちたいものです。それは同時に子どものSOSを感じ取るアンテナにもなります。子育ては根気のいることですが、欠かさず水（食事）をやり、光をあて、時には冷たい風（経験や出会い）にもあて、肥料（励まし、賞賛）もやりながら、愛情を言葉にかえて皆で育てていきましょう。

また、この度は保護者アンケートのご協力ありがとうございます。学校でも内部評価をしています。コミュニティスクールとして地域の皆様にもいただいた評価も併せて、次年度へ生かす所存です。創立150周年を迎えてさらに子どものために成長する立花小学校を、チームで目指してまいります。

6年生は卒業までの登校が残すところ14日となりました。2月22日には立花中学校での説明会にも行きました。小中連携の一環です。幼保小連携尼崎市モデル校園所も3年が経過し、全学年での取組も定着してきました。1年生も小学生としてたくましく成長しました。異校園種の職員が互いにリスペクトし合いながら、熱心に実践と研究に励み、それが子どもの成長につながる姿を見られたことは大きな収穫でした。昨春入学してきた1年生が、今は年長児が学校に慣れるためのアプローチカリキュラムにお兄さんお姉さんとして取り組んでいます。そしてどの学年も1年間の感謝をこめてそうじをがんばっています。たのしい限りです。

5日には6年生を送る会があります。そして21日は卒業式です。自然で美しい挨拶ができる6年生、がんばってくれました。みんなの大好きな優しいお兄さんお姉さんは、永久に不滅です！どこかで聞いたセリフでしょうか。最後の1か月、次の学年を見据えて子どもたちのためにチームで尽力いたします。